

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **115** 号

令和2年 10・11・12月



孔雀文刺繍幡 部分（正倉院宝物）

特別展

第72回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)
東・西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

－特集 神鹿の造形－
12月8日(火)～令和3年1月17日(日)
東新館

特集展示

新たに修理された文化財

12月22日(火)～令和3年1月17日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏教美術

12月8日(火)より
西新館

名品展

珠玉の仏たち

12月20日(日)まで
なら仏像館

中国古代青銅器

12月20日(日)まで
青銅器館

特別展

第72回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)



五色龍齒



平螺鈿背円鏡



色氈



馬鞍



墨絵彈弓(部分)

本年の正倉院展は、薬物・武器・武具がまとまって出陳されるほか、鏡、花氈、伎楽面、装束など、宝物の多彩な世界をご覧いただくことができます。

薬物は光明皇后によって東大寺に献納されました。目的は仏を供養するとともに、病人の治療にありました。皇后は施薬院を創設するなど生涯にわたり病人の救済を行いました。奈良時代における病人の救済活動の一端をご覧いただくことができます。

正倉院にはかつて聖武天皇遺愛の武器・武具が四百件もありました。その大半は藤原仲麻呂の乱を平定するために倉を出してしまいました。現在、正倉院に伝わる武器・武具、馬具は、東大寺の備品であったものが含まれているようです。今回は、大刀、弓、箭、胡禄、鞆、鉾、馬鞍が出陳され、奈良時代における代表的な武器・武具をご覧いただけます。

また、今回は種々の工芸技法を駆使し、美術的にも見応えのある宝物が多く出陳されます。中でも、近年の研究で材料や製作方法について新発見のあった花氈と色氈、犀の文様が表されている平螺鈿背円鏡、曲芸や奇術などが細かく描かれている墨絵彈弓、正倉院刺繍を代表する孔雀文刺繍帷や紫皮裁文珠玉飾刺繍羅帯、残欠、撥縷、螺鈿、木画などの工芸技法を駆使した桑木木画碁局など、正倉院宝物を代表する名品が出陳されます。

本年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、観覧には前売日時指定券をあらかじめお求めいただく必要があります。大変ご不便をおかけしますがよろしくお願いたします。

**第72回正倉院展の観覧には前売日時指定券が必要となります。
当日券の販売はありませんのでご注意ください。**

前売日時指定券の販売は、9月26日(土)10:00より、ローソンチケット(Lコード57700、先着順)、チケットぴあ(Pコード763-373、電話0570-02-9999、先着順)、読売新聞オンラインチケットストア(抽選販売、申込期間9月26日～10月6日)にて行います。当館チケット売場での販売はありません。また、売り切れ次第販売を終了いたしますので、ご了承ください。詳細は展覧会チラシ、当館ホームページ、読売新聞オンライン正倉院展特設サイトをご確認ください。

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 神鹿の造形―

12月8日(火)～令和3年1月17日(日)



◎春日鹿曼荼羅(当館)〈12/8～12/20展示〉



鹿座仏舎利(奈良・春日大社)

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮神社の祭礼で、平安時代の保延二年(一一三六)に始まったとされ、今年で八八五年目を迎えます。本展覧会は、絵画や文献史料、芸能資料等を通じて、おん祭の歴史と祭礼の様子を展示する恒例の企画で、今年十四回目を迎えます。本年は、おん祭を描いた絵画や祭礼に関連する品々をご紹介しますと共に、春日信仰と関わりの深い神鹿しんかくに関する美術を特集いたします。春日の神とともに神聖視され、礼拝の対象となった鹿か。神々しく、時には愛らしいその姿を、様々な美術品を通してお楽しみいただきます。



紅葉鹿蒔絵小鼓(奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

12月22日(火)～令和3年1月17日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルで紹介いたします。



◎道宣律師像(当館)修理の様子

仏教美術の精華 法隆寺金堂壁画

— 写真ガラス原板デジタル画像の公開に寄せて —

当館情報サービス室長 宮崎 幹子

真夏日が続いていた今年の七月二十二日、聖徳太子の月忌（月命日）に、焼損前の法隆寺金堂壁画を記録した高精細画像がインターネットで公開された。昭和十年（一九三五）に撮影された写真ガラス原板から作られたこの画像は、昨年度の特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」の会場でも一部が展観された。その後スキヤニングと接合作業が進み、壁画十二面のうち八面分までが揃った時点で公開の運びとなった。

法隆寺金堂の外陣に描かれた壁画は、制作が七世紀後半から八世紀はじめにまで遡ると考えられているが、昭和二十四年（一九四九）一月二十六日の早朝に発生した不慮の火災によって甚大な損傷をこうむり、惜しくも表面の彩色が著しく損なわれてしまった。この惨事の十四年前、法隆寺「昭和の大修理」の一環で撮影された原寸大分割写真（写真ガラス原板三百六十三枚。法隆寺蔵）は、焼損前の壁画の姿を克明にとどめた資料として、皮肉なことに火災によってその価値が高まった。

平成二十七年（二〇一五）に写真ガラス原板が国の重要文化財（歴史資料部門）に指定されたのち、法隆寺では国庫補助事業によるクリーニングと保存箱の製作、デジタル化が進められている。今年度末となる事業完了後に展覧会等での披露が計画されていたが、今春からの寺院の拝観停止といった状況などを受け、より多くの皆様にご覧いただくためにインターネットでの一般公開が決まった。デジタル化や画像公開にあたっては、法隆寺金堂壁画保存活用委員会や朝日新聞文化財団ほか、多くの関係者から協力や助言が得られた。

この写真ガラス原板は一枚が縦六十一センチ、横四十六センチほどの大きさで、スキヤニング後に接合された巨大な画像は、四方四仏をあらわした大壁で約三百億画素、麗しい菩薩を一体ずつ描いた小壁では百七十億画素という、これまでに公刊された図版に比してかつてないほどの精度を誇る。画像を丁寧な観察していくと、如来や菩薩の身体や毛髪をかたどる変化に富んだ描線、菩薩が手に執る花の葉や茎の毛などの微



菩薩、花、羅漢を描きわける表情豊かな線に注目（第一号壁 部分）

細な表現、如来の説法に参集する羅漢たちの表情にみられる巧みな描きわけなど、画師たちの卓越した技術が余すところなく記録されていることにあらためて驚かされる。

ウェブサイトには公開後二か月ほどで三万三千件を超えるアクセスがあり、画像を介して知られる壁画の高い芸術性に感嘆の声が寄せられた。解説文は日本語と英語の併記としているが、アメリカの研究者から好評をいただき、さらに中国からも多くの閲覧があったことは嬉しい驚きだった。インドのアジャンター石窟や中国の敦煌莫高窟の壁画と並んで称賛されてきた壁画ゆえ、画像公開をきっかけに東アジアや世界的な文脈で今後どのように語られていくのか楽しみである。

哲学者の和辻哲郎は、二十代の若き日に法隆寺の崇高な美しさを情熱的な言葉を駆使して讃え、第六号壁阿弥陀浄土図について「この画の前にあつてはもうなにも考えるには及ばない。なんにも補う必要はない。ただながめて酔うのみである（中略）人の美しい顔を描いてこれほど非人情的な、超脱した清浄さを現わしたものは、まず比類がないといってよいであろう」（『古寺巡礼』大正八年（一九一九）初版発行）と賛美を惜しまなかった。同書を携えて古都奈良をめぐり、壁画にまみえた人も少なくなかっただろう。和辻たちを魅了した焼損前の壁画を直に拝することは残念ながらもはや叶わないが、この画像を通して多くの皆様が壁画に接し、その魅力を心に刻んでくださることを願ってやまない。

法隆寺金堂壁画写真ガラス原板デジタルビューア <https://horyuji-kondohkeiga.jp/>
制作：法隆寺、奈良国立博物館、国立情報学研究所高野研究室 協力：文化財活用センター、便利堂

出陳一覽

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館

9月29日(火)～12月20日(日)

【彫刻】

【第1室】

- 如来立像 当館
- 如来立像 当館
- 蔵王権現立像 当館
- 阿弥陀如来立像(裸形) 当館
- 狛犬 当館

【特別公開】

- 十一面観音菩薩立像 大智寺

【第2室】

- 虚空蔵菩薩坐像 文化庁
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 天部坐像 当館
- 毘沙門天立像 如法寺
- 力士立像 当館



○力士立像 当館

【第3室】

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 東大寺

【第4室】

- 方形独尊坐像 当館
- 火頭形三尊博仏(奈良県橘寺出土) 当館
- 六角形博仏(三重県天華寺出土) 当館
- 塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 当館
- (奈良県川原寺裏山遺跡出土)

明日香村教育委員会

塑像断片(菩薩頭部)
(奈良県定林寺出土)
塑像断片(天部・僧形像ほか)
(滋賀県雪野寺出土)

【第5室】

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 法徳寺
- 誕生釈迦仏立像 法起寺
- 菩薩立像 興福院
- 菩薩半跏像 神野寺
- 菩薩菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 蔵王権現立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 薬師寺
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

【第6室】

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 広目天立像 興福寺
- 多聞天立像 当館
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 如来立像 当館
- 薬師如来立像 元興寺
- 阿弥陀如来坐像 泉屋博古館
- 吉祥天立像 法明寺
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺
- 阿閼如来坐像 西大寺

【特別公開】

○文殊菩薩騎獅像

【第7室】

- 十一面観音菩薩立像 元興寺
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 観音菩薩立像 勝林寺
- 観音菩薩立像 文化庁

【第8室】

- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 大日如来坐像 十市町自治会
- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 天部形立像 兵庫県
- 天部形立像 十市町自治会

【第9室】

- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺
- 地藏菩薩立像 法徳寺
- 地藏菩薩立像 万福寺

【第10室】

- 不動明王坐像 正寿院
- 大威徳明王騎牛像 妙法院
- 不動明王立像 当館
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王立像 個人

【第11室】

- 大将軍神坐像 大将軍八神社
- 大将軍神坐像 当館
- 伊豆山権現立像 当館
- 光背 当館
- 光背 個人
- 光背 当館
- 四天王立像 現光寺
- 持国天立像・増長天立像 法徳寺
- 天部形立像 個人

【第12室】

- 二天王立像 室生寺
- 帝釈天坐像 室生寺
- 吉祥天倚像 当館
- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏) 当館
- 菩薩立像 個人
- 地藏菩薩立像 当館
- 阿弥陀如来立像 西法寺
- 如来立像 個人
- 金剛童子立像 当館
- 蔵王権現立像 大峯山寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

【第13室】

- 法華経(宗性願経) 当館
- 法華経 当館
- 後村上天皇宸翰寄進状 丹生都比売神社
- 頼宝施入状 丹生都比売神社
- 後柏原天皇論旨・室町幕府奉行人連署奉書ほか 談山神社
- 多武峰寺衆徒勸進事書 談山神社
- 多武峰社法楽賦山何連歌 談山神社
- 織田信長黒印状・豊臣秀吉朱印状 談山神社
- 多武峰年中行事 談山神社

珠玉の仏教美術

名品展

12月8日(火)～令和3年1月11日(月・祝)

【絵画】

- 俱舍曼荼羅 東大寺
- 香象大師像 東大寺
- 浄影大師像 東大寺
- 法相曼荼羅 薬師寺
- 玄奘三蔵像 宝蔵寺
- 釈迦十六善神像 当館
- 釈迦十六善神像 西大寺
- 玄奘三蔵十六善神像 達磨寺
- 最勝曼荼羅 現光寺
- 薬師十二神将像 正暦寺
- 薬師十二神将像 薬師寺
- 覚禪鈔 弥勒法 勸修寺
- 覚禪鈔 阿弥陀法 勸修寺
- 阿弥陀三尊および童子像 法華寺
- 当麻曼荼羅 来迎寺
- 浄土曼荼羅(伝智光曼荼羅) 能満院
- 智光曼荼羅 文化庁
- 清海曼荼羅 聖光寺
- 大般若経(長屋王願経) 見性庵

【考古】

- 土偶(山形県杉沢遺跡出土) 当館
- ※土偶(青森県八日町遺跡出土) 青森県立郷土館
- ※クマ形土製品(青森県尾上山遺跡出土) 青森県立郷土館
- ※クマ形土製品(青森県尾上山遺跡出土) 青森県立郷土館
- ※亀形土製品(青森県亀ヶ岡出土) 青森県立郷土館
- ※土偶(青森県大曲遺跡出土) 青森県立郷土館
- 盛装男子埴輪(伝群馬県出土) 当館
- 犬形埴輪(伝茨城県東海村外宿出土) 当館
- 胃(蒙古鉢形) 当館
- 垂木先瓦(奈良県山田寺出土) 当館
- 隅木蓋瓦(伝和歌山県上野庵寺出土) 当館



クマ形土製品(青森県尾上山遺跡出土) 青森県立郷土館

鬼瓦(奈良県薬師寺出土)

京都国立博物館

隅木蓋瓦(伝奈良県薬師寺出土)

当館

塑像断片(鳥取県齊尾廃寺出土)

当館

◎塑像断片(奈良県薬師寺西塔出土)

薬師寺

埴仏(大分県虚空蔵寺跡出土)

当館

埴仏(三重県夏見廃寺出土)

当館

◎粟原寺三重塔伏鉢

談山神社

鉢(奈良県霊安寺塔跡出土)

当館

青白磁四耳壺(愛媛県石手寺経塚出土)

当館

◎青磁碗・皿(鳥根県荻狩古墓出土)

当館

◎青磁牡丹唐草文深鉢

正暦寺

(奈良県正暦寺出土)

正暦寺

◎青磁浮牡丹文香炉

青森県立郷土館

(青森県伝八館遺跡出土)

青森県立郷土館

◎忍性骨蔵器

文化庁

(奈良県額安寺五輪塔納置品)

文化庁

瓦経(鳥取県大日寺経塚出土)

当館

銅板法華経(大分県長安寺経塚出土)

長安寺

泥塔経(鳥取県智積寺経塚出土)

当館

◎滑石製弥勒如来像(永久三年銘)

当館

(長崎県鉢形嶺経塚出土)

当館

※は考古資料相互活用促進事業による展示

当館

◎一切経箱

大長寿院

◎厨子

温泉寺

◎宝相華文透彫経筒

万徳寺

瓶鎖柄香炉

個人蔵

華瓶

個人蔵

燭台

個人蔵

◎釣灯籠

当館

◎仏餉鉢

都々古別神社

◎迦陵頻伽文華鬘

金色院

◎幡頭

金色院

輪宝羯磨文透彫幡

個人蔵

聖観音懸仏

当館

千手観音懸仏

宇迦神社

熊野三所権現懸仏

当館

五尊懸仏

当館

◎密教法具

嚴島神社



◎密教法具 嚴島神社

◎四天王五鈷鈴

弥谷寺

一面磨

西大寺

羯磨

当館(服部和彦氏寄贈)

輪宝

当館(服部和彦氏寄贈)

輪羯台

当館(服部和彦氏寄贈)

四楓

当館

金鉢

当館(服部和彦氏寄贈)

閻伽桶

当館(服部和彦氏寄贈)

◎卓

東大寺

礼盤

峰定寺

◎花鳥彩繪油色箱

東大寺

唐櫃

個人蔵

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

12月20日(日)

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●=国宝、◎=重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

【表紙解説】

孔雀文刺繍幡

縦八一・二cm 横三〇・〇cm
絹製 奈良時代(八世紀)
正倉院宝物(南倉)

紫色の綾に刺繍で孔雀や草花、花をつけた樹木を表している。刺繍は表裏の両面から鑑賞でき、しかも縦長の地裂の形状から、寺院の法要で境内や堂内に懸ける幡と呼ばれる幟の一部分と考えられる。

刺繍糸は撚りのない絹糸を用いる。撚りのない絹糸は光沢が美しく、見る角度によって光の反射具合が違う。きつとこの幡もはためくたびに美しい光彩を放っていたことであろう。地の綾と同じ裂が天平勝宝九歳(七五七)五月の聖武天皇一周忌法要に懸けられた幡にも用いられており、この幡もその頃の製作であろう。

内藤 栄(当館学芸部長)

◆「第七十二回 正倉院展」(10月24日~11月9日)にて展示

◆奈良国立博物館賛助会

令和2年9月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)16団体、一般会員(個人)75名のご入会をいただいております。

- 〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓
- 〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー
- 〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノプレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部
- 〔個人会員(新規)〕 森本 晃生様 令和2年7月ご入会、石井 皆子様 令和2年8月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

令和2年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

- 大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内



令和3年4月から「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」の料金が改定となり、特典内容の一部が変更となります。詳しい情報は10月中旬頃、当館ホームページ等でお知らせいたします。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」な話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月4日(日) 「描かれた東大寺大仏の姿」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

たび重なる兵火に遭いながらも復興を遂げ、今日も奈良の地に坐(いま)す東大寺の大仏。その姿はさまざまな絵画のなかにも表されてきました。描かれた東大寺大仏の姿から見てくることについて考えてみたいと思います。

[受付期間/9月14日(月) 10:00~10月3日(土) 24:00]

■11月29日(日)

「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観」

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

当館が保管する明治~昭和期の古写真の中には、仏像をはじめとする文化財だけでなく、人物や自然景観を撮影したものもあります。今回は奈良公園とその周辺で撮影された古写真を、現在の景観とともに紹介します。

[受付期間/11月9日(月) 10:00~11月28日(土) 24:00]

■12月20日(日) 「売立目録と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

明治時代末から昭和時代にかけて作成された売立目録は、美術作品の伝来や流通を考えるうえで重要です。仏像研究における売立目録の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

[受付期間/11月30日(月) 10:00~12月19日(土) 24:00]

■令和3年1月17日(日) 「文化財を科学するⅦ」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

絵画や彫刻など多くの文化財は彩色(着色)されています。今回は彩色材料を調べる方法とその彩色材料についてお話ししたいと思います。

[受付期間/12月28日(月) 10:00~1月16日(土) 24:00]

■令和3年2月21日(日) 「仏都会津のみほとけたち」

内藤 航(当館学芸部研究員)

福島県の会津地域は、平安時代のはじめに奈良の僧・徳一が訪れたことを契機に仏教文化が花開き、仏像も数多く造られました。奈良とは一味違う、魅力的なみほとけの数々をご紹介します。

[受付期間/2月1日(月) 10:00~2月20日(土) 24:00]

■令和3年3月21日(日)

「舍利信仰の美術—舍利容器の形から信仰を読み解く—」

内藤 栄(当館学芸部長)

鎌倉時代を中心に、日本で生まれた様々な形の舍利容器を紹介します。多様な形は多様な信仰や複雑な法要が背景にあることをお話しします。

[受付期間/3月1日(月) 10:00~3月20日(土) 24:00]

【時 間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名 (事前申込先着順)

【申込方法】 **※事前申込制となりました。**

ご注意ください。

当館ホームページ「講座・催し物」内の「サンデートーク」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください (WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料 (展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です (当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 第72回正倉院展 公開講座 ❖

■10月31日(土) 「正倉院の石薬とその素材」

鶴 真美 氏(宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員)

■11月7日(土) 「武器・武具の献納と薬物の献納について」

内藤 栄(当館学芸部長)

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 90名(事前申込先着順)

【申込方法】 **※事前申込制となりました。**

ご注意ください。

当館ホームページ「講座・催し物」内の「公開講座」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください (WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 10月5日(月) 10:00~各講座開催前日24:00まで

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 留学生の日関連イベント ❖

■11月28日(土) 「英語落語 in 奈良博」

笑う門には福来る!落語を英語で聞いて笑ってください。中学英語で十分楽しめるので、英語が得意でなくても大丈夫です。

プロの落語家さんの手ほどきを受けたアマチュアの方々による英語落語です。

【時 間】 14:00~15:30(13:15開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 90名(申込先着順)

【演 目】 ① 道具屋/英楽亭いろは

② いらち俵/英楽亭TOYO

③ 餅屋問答/英楽亭MT

【申込方法】 ホームページ応募フォーム

当館ホームページ「講座・催し物」内の「英語落語」申込み画面より必要事項を入力の上、お申し込みください。

【受付開始】 10月23日(金) 11:00~

※参加無料。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力をお願いいたします。

37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接触がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。

入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。

アルコール消毒や手洗いに協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

こん こうみょう さい しょう おう きょう
金光明最勝王經 卷第二

国宝
 紫紙金字
 縦26.4cm
 長798.0cm
 奈良時代
 (8世紀)
 当館



紫色の染め紙に金泥で文字を書く。金色の文字が燦然と輝き、紫紙に映える本品は、名品の多い奈良時代の写経の中でも、ひととき目を引くものである。そして、この特別な写経が作られた目的は、聖武天皇が建立を進めた諸国国分寺の七重塔に納めるため、であった。よって、この紫紙金字『金光明最勝王經』は、当時の国の数だけ作られたと推定され、正倉院に伝わる古文書によると、天平18年(746)に写経が概ね完成したときには71セットあった(1セットは10巻)。それから1250年以上を経た現代に残っているのは、2セットと、端本が数巻である。

さて、本品は、経文の書かれた本紙が良い状態で残るだけでなく、表紙も製作当初のままであり、外題の金字も美しい。そのため展示会場では巻頭付近にお目にかかることが多いが、今回はあえて巻末付近を図版に掲げた。金字の美しさは、巻頭でも巻末でも異なることはない。ただ残念ながら、巻末の軸は後世に補われたもので、本紙の左端も少し切り落とされている。今は残らない軸だが、国分寺の七重塔に納められた当時、軸の上下の端はガラスや瑪瑙、水晶などの材で飾られていたことが、正倉院の古文書から知られる。その姿を想像してみると、この写経がいかに荘嚴の尽くされたもので、特別な品であったかということに、改めて気付かされるのである。

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、12月8日から展示

展示品の
 みどころ

く しゃ まん だ ら
俱舎曼荼羅

国宝
 絹本着色
 縦164.5cm 横176.6cm
 平安時代(12世紀)
 奈良・東大寺



俱舎宗は奈良時代に公認された仏教の六学派(南都六宗)のひとつである。

本図は中央上よりに釈迦三尊を、それを

囲んでインド人の俱舎宗祖師10人を描き、四隅に四天王、左右辺の中ほどに梵天、帝釈天を表す。鮮やかな色彩で構成される大画面は見る者を引きつける。

釈迦三尊に比して祖師の姿が長大である一方、梵釈四天王は小さくかつ並列的に配されるなど構図には特色があるが、このことは本図の成立に起因するとみられる。釈迦三尊は東大寺に伝来した法華堂根本曼荼羅(ボストン美術館蔵)、祖師は東大寺大仏殿に安置された六宗厨子の扉絵、梵釈四天王は東大寺戒壇院に納められた華嚴経厨子の扉絵といういずれも8世紀にさかのぼる別々の絵画から大きさも含めて写されたと考えられるのである。平安後期における俱舎学復興のなかで、天平、さらには仏教、俱舎宗の生まれた地インドへの回帰という意識のもとに描かれた作例として位置づけられている。

諸尊の肉身に賦された濃い隈取り、衣にあしらわれた暈網彩色や細やかな草花文などの表現には、奈良時代の趣が見取れる。天平絵画の面影をしのばせるとともに、中世の南都における仏画制作のひとつの様相を伝える大作である。

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、12月8日から展示

■開館日時(10月~12月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時

※正倉院展覧会期中の月~木曜日は、午前9時~午後6時

※正倉院展覧会期中の金・土・日曜日、祝日は午前9時~午後8時

■休館日/毎週月曜日、12月29日~31日、1月1日

※ただし11月23日(月・祝)は開館し、11月24日(火)は休館

※正倉院展覧会期中は無休

■なら仏像館・青銅器館の臨時休館について

令和2年12月21日(月)~令和3年2月22日(月)

の間、大規模な展示替えのため、なら仏像館・青銅器館は休館となります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■前売日時指定券料金「第72回正倉院展」

(当日券の販売はありません)

	一般	中・高・大学生
通常券	2,000円	1,500円

※団体料金はありません。

※販売方法につきましては、中面「第72回正倉院展」の記事をご確認ください。その他の券種等の詳細については、展覧会チラシ、当館ホームページ、読売新聞オンライン正倉院展特設サイトにてご確認ください。



●バス停

[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。